

■伊能忠敬 商人・名主として実績を挙げた後、50過ぎに天文・測量を学んで、初めて詳細な日本地図を作成した。

いのうただたか

徳川吉宗隠居1745＝ 上総國小関村(九十九里浜沿岸)で、裕福な網主の家の三男に生まれる。

徳川吉宗没・1751＝ 6歳：母が没する。入り婿だった父が兄姉を伴い神保家に復籍してしまい、

5年ほど、小関浜の納屋に起居し、全くの寄食で不遇であった。

山脇東洋解剖1754＝ 9歳：

源内物産会・1757＝12歳：父が後妻を迎える。常陸国の寺で、僧について数学を習得し、

大岡忠光没・1760＝15歳：

・・・1761＝16歳：常陸国の医師について経学方医を学ぶなど、才能優れた少年であることが知られたのか、

・・・1762＝17歳：利根川に面する関東有数の商業都市佐原で、1,2位を争う豪商で名主伊能家から請われて、婿養子となる。林大学頭の門に入り、名を忠敬と改めた。以後、伊能家と佐原の地位向上を図るべく、

・・・1763＝18歳：長女誕生。

加賀千代句集1764＝19歳：初めて出府。

忠臣蔵大当り1766＝21歳：長男誕生。この年の凶作に際し、米銭を出して窮民を救う。

・・・1769＝24歳：二女誕生。江戸新川に薪問屋を開くが、

・・・1770＝25歳：類焼し、大量の手持ち薪が焼失。

田沼意次老中1772＝27歳：利根川の水運の権利を巡り、幕府から、過去の実績を証明するよう求められると、蔵に残されていた詳細な記録を見つけ出して提出、

解体新書・・・1774＝29歳：養母が死去。それが認められて、運上金まで低く抑えられ、感謝する村民から、名主に推されるとともに、記録をつけることの大切さを知って、後の全国測量でも詳細な日誌をつけることになり、それが、各藩の状態を知りたい幕府から信頼される要件の一つになる。

ツツ船蝦夷来 1778＝33歳：妻を伴い奥州松島辺を漫遊。この年、佐原は、旗本津田氏の知行地になる。

伊能家は、河川の氾濫が多い地域にあって、測量や地図制作の伝統をもつ家柄だったことから、この間、名主の仕事として、利根川の堤防修理などに取組み、測量技術を身につけていき、それがそのまま、全国測量に役立つことになる。

・・・1781＝36歳：津田氏から、名主を命じられる。

天明大飢饉始1782＝37歳：実父が没する。

蘭学階梯・・・1783＝38歳：妻が死去。浅間山が大噴火、関東一円が大凶作となり、佐原近辺でも、降灰だけでなく、土石流による利根川の問題などで窮乏、江戸での打毀しが波及してくる危機に、村の幹部商人と協議して、窮民に、米や金銭を与えることとし、佐原では餓死者も打毀しも出さずに済むと、

意知刺殺事件1784＝39歳：名主の上の、村方後見を命じられる。さらに、窮民に与える米を関西から求め、残米を江戸に回送して利益を得る才覚も見せ、

田沼意次失脚1786＝41歳：愛人との間に、二男誕生。この年の大飢饉に際しても、同様にして巨利を得、のちに隠居するにあたり、これらの蓄えの相当量を隠居料とし、地図測量当初のボランティア段階の資金を賄うことになる。

寛政改革始・1787＝42歳：救われた村民らが、感謝の念を示すべく、連名で幕府に申請したことから、苗字帯刀を許されるとともに、幕府から信頼される人間として認められるのである。

・・・1788＝43歳：三男誕生。二女没。その結果、この年には伊能家は佐原第二の酒造家になるまでにした。

初の横綱・・・1789＝44歳：三女誕生。

異学の禁・・・1790＝45歳：仙台藩医の長女を後室とする。

ラスマン来日・1792＝47歳：三人扶持となる。測量や地図制作するうち、曆数に興味を持ち始めたらしく、隠居後に備えてか、女婿にも算術書の購入を依頼し、西洋天文学の独習に励む。

松平定信引退1793＝48歳：京阪地方を漫遊。

ワヅガ正月・1794＝49歳：三男没。家を長男に譲り、隠居。一人扶持が給せられるが、

写楽・・・1795＝50歳：長男も苗字帯刀を許される。後室が死去。江戸へ出て深川黒江町に住み、天体観測も始めるとともに、

ブートン来航・1796＝51歳：*それも辞した上、曆局に通って、高橋至時に師事、すでに独習していたことから、緯度1度の距離を確定することを企図する至時の恰好の弟子となり、至時は、遠方の蝦夷測量の重要性を幕府に説くことになる。

昌平饗始・・・1797＝52歳：日本で初めて、白昼金星の南中を観測。

蝦夷地直轄始1799＝54歳：

伊能測量始・1800＝55歳：*ようやく、許可が下り、忠敬とその弟子数名に実施させた。伊能隊の測量が始まる。江戸にもどり、内縁の妻の手で実測図を完成、幕府に上呈。間宮林蔵と邂逅して以後愛弟子とする。

宣長没・・・1801＝56歳：蝦夷図の完成度の高さが幕府を動かし、以後、毎年各地の測量を続け、実測図を作成することになり、ついには日本全国沿海測量にまで発展していくのである。

アメリカ船来航始1803＝58歳：糸魚川で地元役人と衝突したり、内縁の妻が行方不明となる。

バノ来航・1804＝59歳：師の高橋至時が死去した年、作成してきた地図が將軍徳川家斉に披露されて、正式に幕臣となり、以後の測量は、全て幕府が賄うことになる。

バノ報復・1806＝61歳：門人二人を破門。

フェートン号事件 1808＝63歳：

浮世風呂・・・1809＝64歳：幕命により「日本輿地図彙」(仮製日本地図)を作成。

ゴロン拿捕 1811＝66歳：間宮林蔵を自宅に寄寓させて、天体観測などの技術を習得させ、測量開始当初の場所でその結果に不安を持っていた蝦夷について、再度精密に測量し直して貰うように依頼、

高田屋拿捕・1812＝67歳：全国を回っている間も、故郷のことは忘れず、この年、佐原で洪水のあったことを知ると、娘に、窮民を救うよう書き送っている。

浮世床・・・1813＝68歳：長男が病没。

・・・1815＝70歳：伊能隊の測量は、その日数3737日、測量距離4万km近く、天体観測地点数1203に達し、

伊能測量終・1816＝71歳：「仏国曆象編斥妄」を著す。*「大日本沿海実測全図」の制作にとりかかり、

杉田玄白没・1817＝72歳：江戸府内地図が完成、幕府に上呈。間宮から蝦夷の測量結果も得るが、病がちとなり、

水野忠成老中1818＝73歳：*完成を見ることなく、没した。

その後、弟子たちによって作業が続けられ、3年後に、伊能図といわれる「全国地図」および「輿地実測録」が完成し、幕府に収められた。墓は遺言によって東京上野の源空寺墓地内の高橋至時の墓と並んでいる。

川村優「日本地図に賭けた人生」、「人づくり風土記(千葉)」、「日本史を変えた人物200人」、「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」。NHK「英雄の選択」により追補、